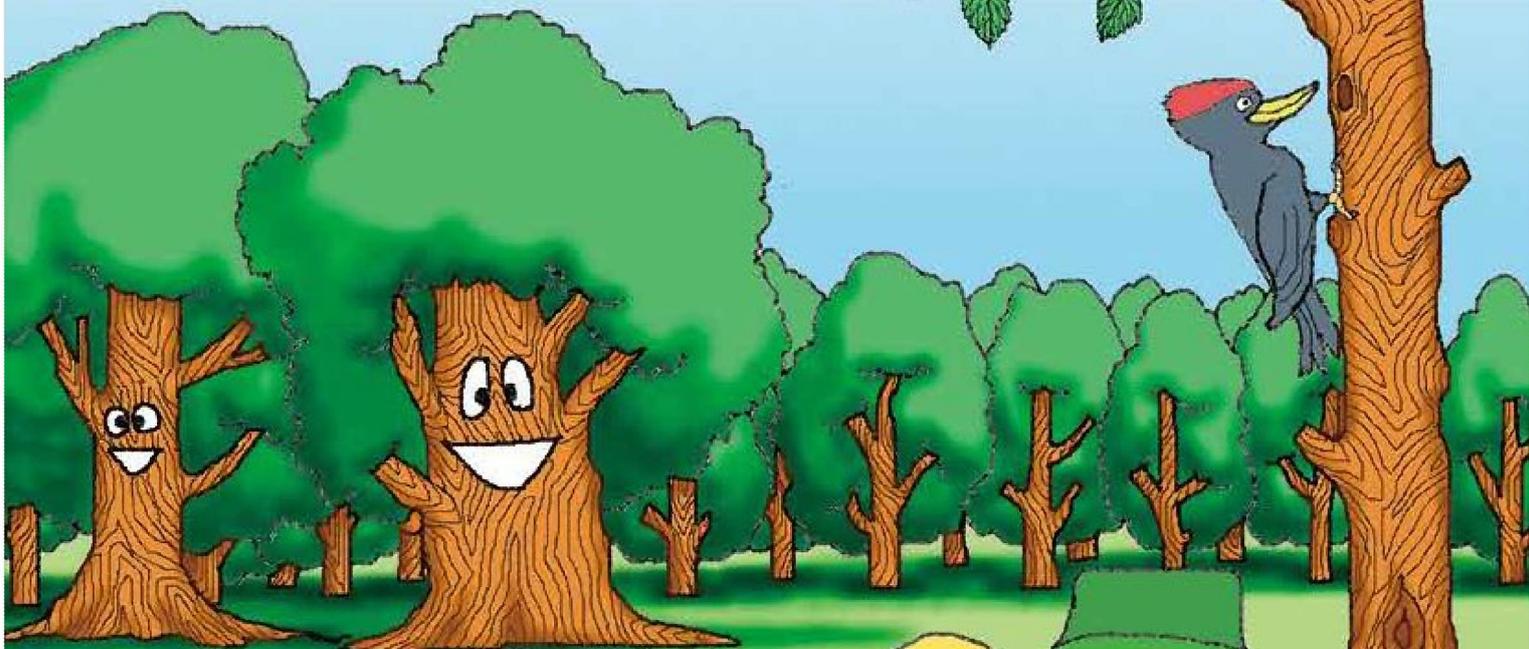


えべつ

かん きょう

環境ハンドブック

江別の自然



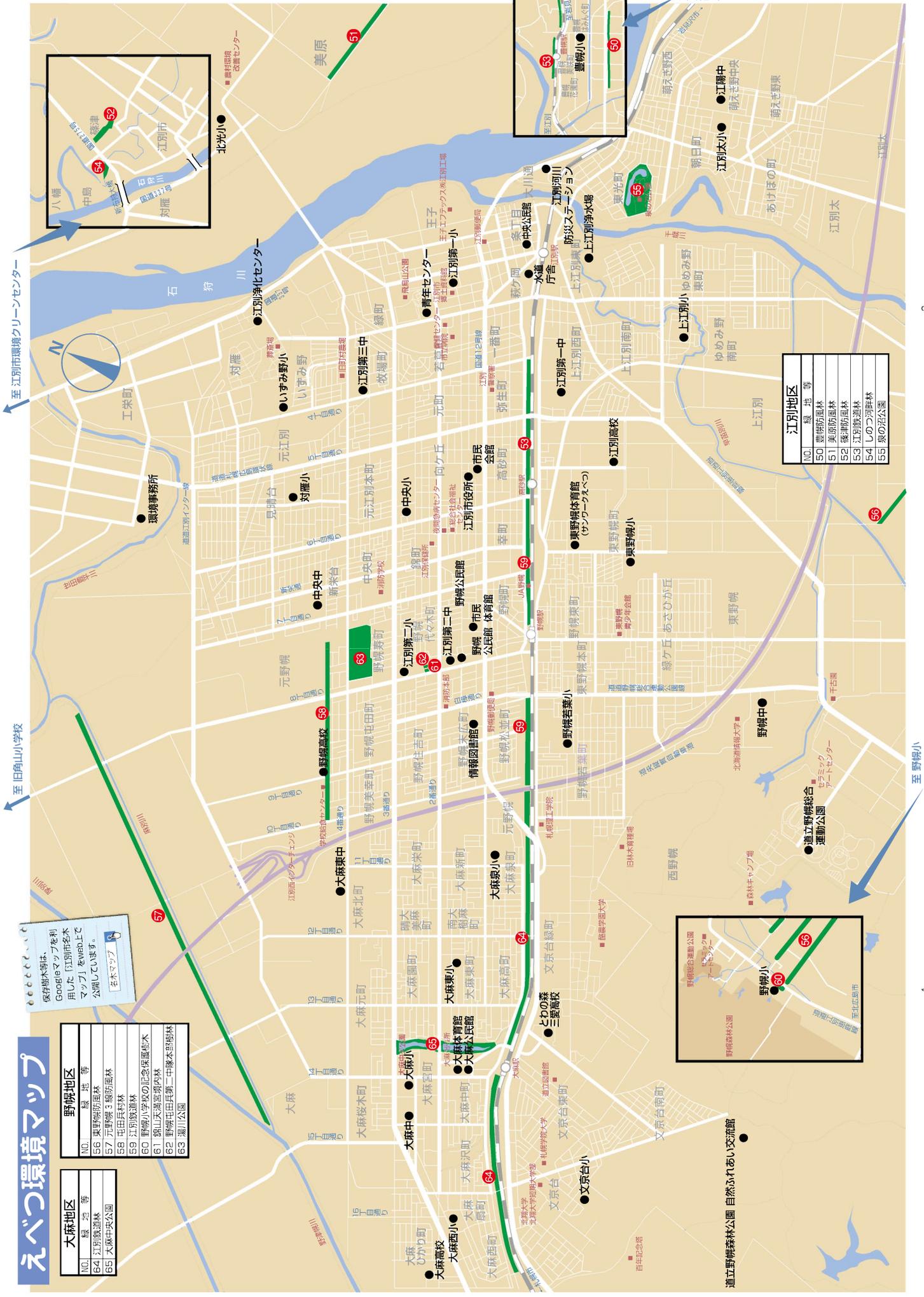
MAMURA

えべつ環境マップ

大塚地区	
NO.	緑地等
64	江別緑道林
65	大塚中央公園

野幌地区	
NO.	緑地等
56	東野幌防風林
57	元野幌3線防風林
58	元野幌3線防風林
59	江別緑道林
60	野幌小学校の記念保樹植木
61	鶴山公園
62	野幌中二丁目緑地
63	野幌公園

保存樹木類は、Googleマップを利用した「江別市名木マップ」をWeb上で公開しています。
 名木マップ



江別地区	
NO.	緑地等
50	豊原防風林
51	美原防風林
52	豊津防風林
53	江別防風林
54	しのつ別防風林
55	真の沼公園

道立野幌森林公園 自然ふれあい交流館

もくじ

- 野外に出かけるときの心得 3
- 野幌森林公園 4
- 江別で見られる葉っぱや種 7
- 自然が残る公園 8
- 江別にある大切な緑 9
- 水辺の環境 11
- 江別で見られる主な動植物 13

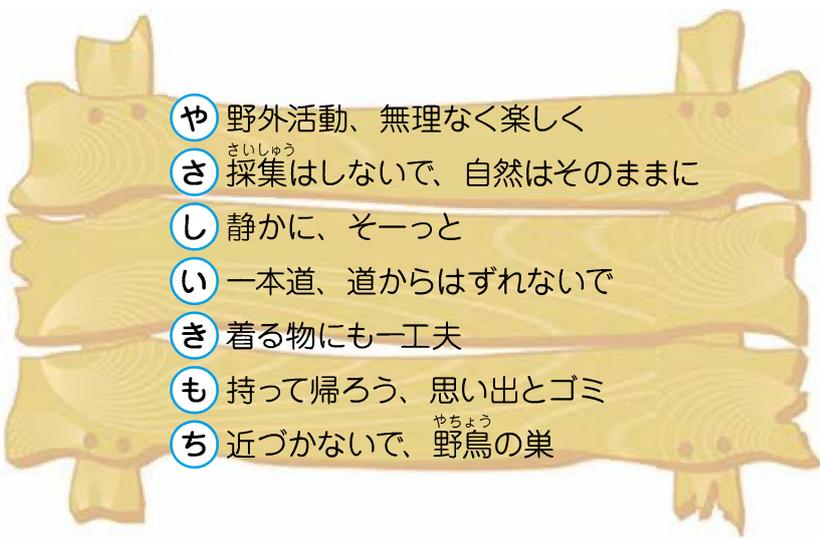
● 野外に出かけるときの心得

▶ 服装と持ち物



- **帽子**
日射病などから頭部を守る。
- **長袖シャツ**
虫刺されやかぶれ、寒さ対策のために。
- **小物入れ**
山道に迷っても心配ないように方位磁針や地図、夏は虫よけのぬり薬を持って行こう。
手ぬぐい、水とう、虫めがね、図かんがあると便利。
- **軍手**
手も汚れないし、植物によるかぶれ対策になる。
- **リュックサック**
これなら両手の自由を確保できて便利。
- **長ズボン**
綿生地で厚手のものがいい。
- **くつ**
雪解け後のぬかるみや、やぶの中に入るときは、軽登山用のくつや長くつがいい。

▶ フィールドマナー



- **や** 野外活動、無理なく楽しく
- **さ** 採集はしないで、自然はそのままに
- **し** 静かに、そーっと
- **い** 一本道、道からはずれないで
- **き** 着る物にも一工夫
- **も** 持って帰ろう、思い出とゴミ
- **ち** 近づかないで、野鳥の巣

森に入るのに、マナーがあります。「やさしいきもち」を守りましょう。



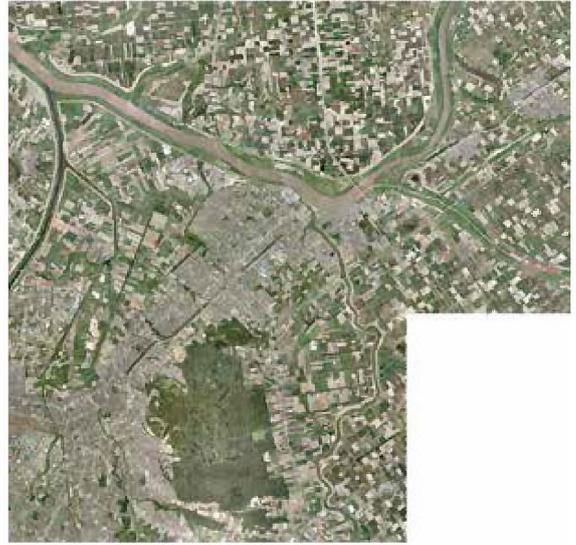
のっぼろ 野幌森林公園

▶世界にほこれる森

野幌森林公園は、明治時代に開拓農民が水源^{げん かく ぼ}地確保のために守った森です。

大都市の近郊に大きな森林帯が残っているのは貴重なことで、面積（2,053ha）の約9割^{き ちやう}（1,841ha）が江別市にあります。

約170種の樹木、約600種の草花や天然記念物のクマゲラをはじめとする約140種の鳥類、約20種のほ乳類^{にゅう かく にん}が確認されています。



▶クリの木

公園内には、林野庁の「全国巨樹・巨木百選」^{りんやちやう}に選ばれている大きなクリの木があります。



● 樹齢(推定)^{じゅれい すいてい}
800年
● 樹高 18m
● 幹周 4.5m

▶自然ふれあい交流館

ここでは、自然に関するパネルを展示している他、自然観察コーナーや休憩スペースがあります。

野幌森林公園を利用する際、立ち寄ってみましょう。



▶外来種「アライグマ」

北米原産のアライグマは、ペットとして人間が日本に持ち込んだ動物です。雑食性で何でも食べるうえに日本では天敵や競争種類が少ないことから生息数が急増し、もともと住んでいる動物などをおびやかしたり農作物を荒らしたりする被害が増えています。



のっほろ
▶野幌森林公園の四季の動植物

名前を
あててみよう



野幌森林公園には、たくさんの動植物が生息しています。
みんないくつ知っているかな？

《春》草花が咲きほこり、森全体が
あわ
淡い新緑に包まれます



- 《春》 ①キタコブシ ②エゾヤマザクラ ③オオルリ ④エゾノリュウキンカ ⑤オオバナノエンレイソウ ⑥エンレイソウ ⑦ザゼンソウ ⑧エゾアカガエル
⑨ウグイス ⑩マイマイカブリ ⑪クジャクチョウ ⑫エゾエンゴサク ⑬ミズバショウ
- 《夏》 ⑭クロツグミ ⑮キビタキ ⑯ヨツバヒヨドリ ⑰ノリウツギ ⑱エゾマイマイ ⑲キツリフネ ⑳サイハイラン ㉑オオウバユリ ㉒ホオノキ
㉓センチコガネ ㉔ミヤマカラスアゲハ ㉕コエゾゼミ

《夏》緑が濃くなり、森がにぎやかになります



《秋》 ^{こうよう} ^{いろど} ^{ふゆじたく} 紅葉が森を彩り、動物たちは冬支度をはじめます



大沢口



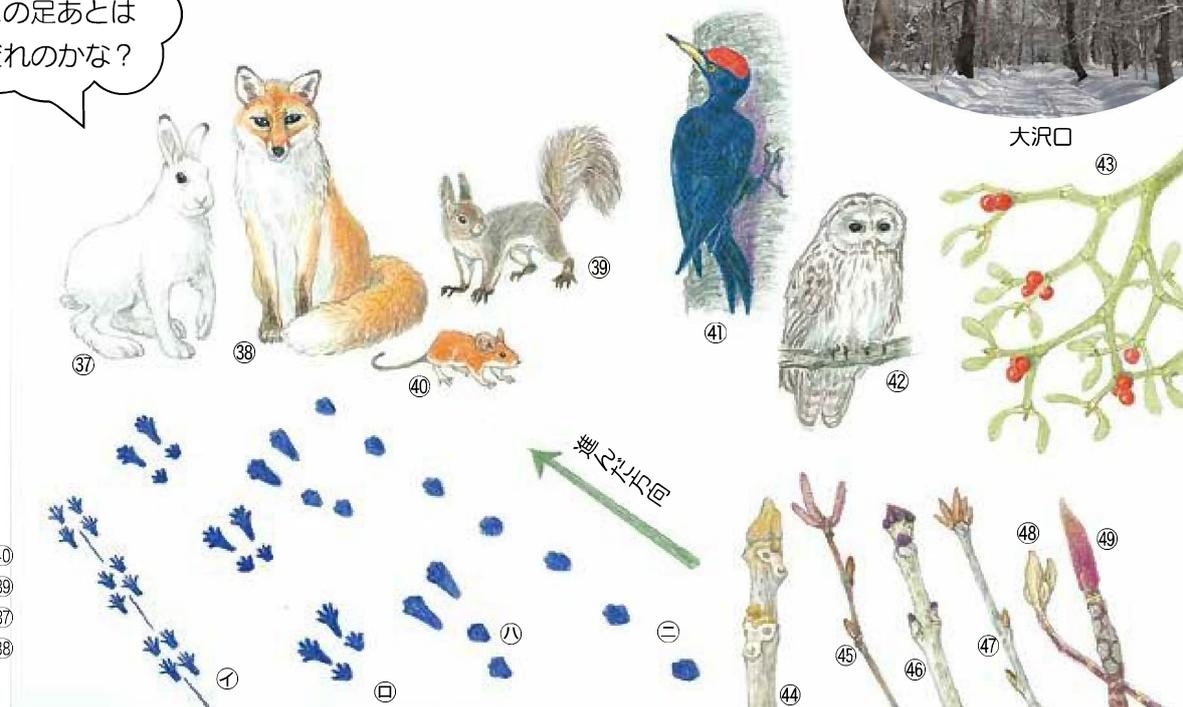
- 《秋》 26クスサンのまゆ 27サルナシ (コクウ) 28エゾトリカブト 29ノシメトンボ 30オオカメノキ 31アカゲラ 32ベニテングダケ 33エゾノコンギク
 34ミカドフキバツタ 35ツグミ 36マムシグサ
- 《冬》 37エゾユキウサギ 38キタキツネ 39エゾリス 40エゾヤチネズミ 41クマガイ 42フクロウ 43アカミヤドリギ 44オニグルミ 45シラカンバ
 46ヤチダモ 47ミズナラ 48オオカメノキ 49ホオノキ

《冬》 雪の上には、動物たちの ^{いと} ^な ^{きざ} 営みが刻まれています



大沢口

この足あととは
だれのかな？

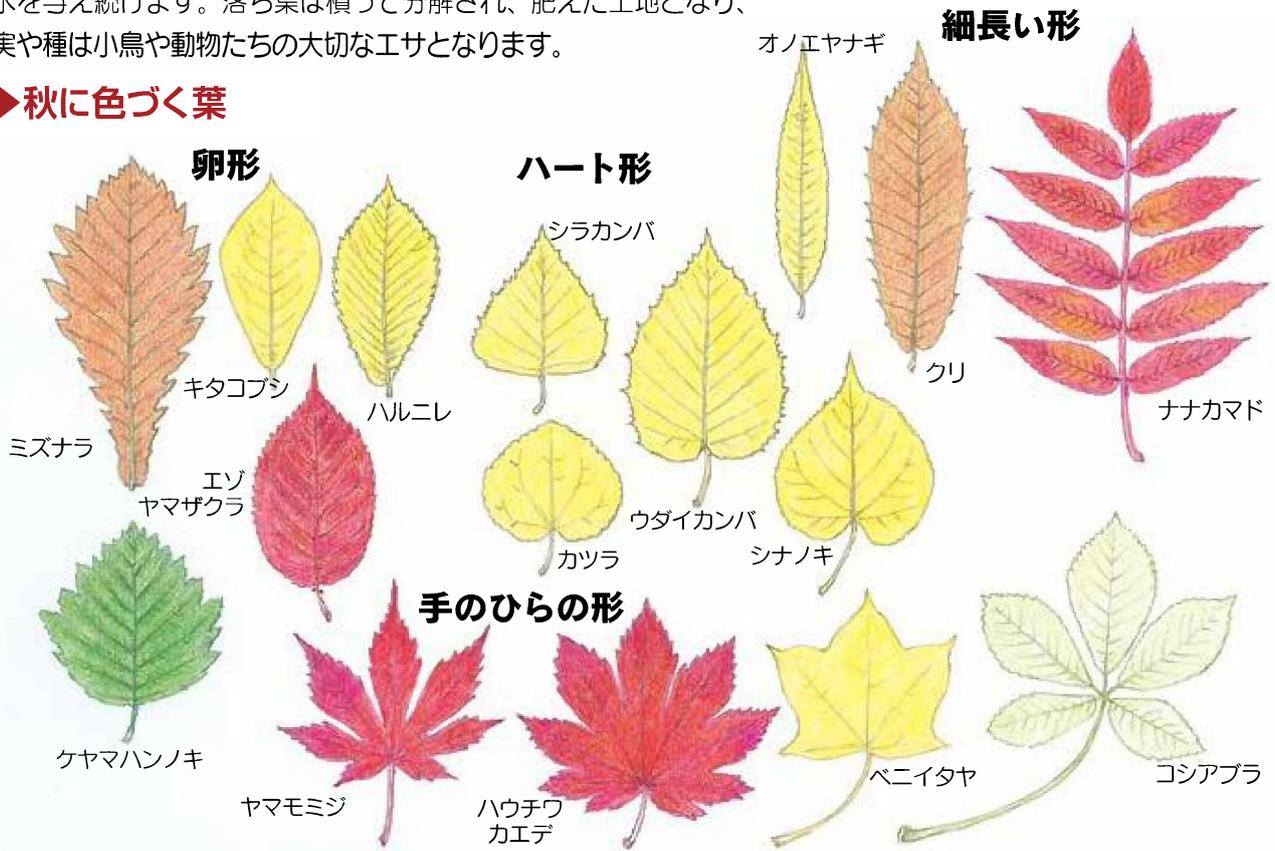


- ① = 40
 ㊦ = 39
 ㊨ = 37
 ㊩ = 38

江別で見られる葉っぱや種

樹木は、一度に降った雨水を蓄え、流れを止めることなく川に水を与え続けます。落ち葉は積って分解され、肥えた土地となり、実や種は小鳥や動物たちの大切なエサとなります。

▶秋に色づく葉



▶種の運ばれ方

風によって運ばれるもの



鳥のエサとして運ばれるもの



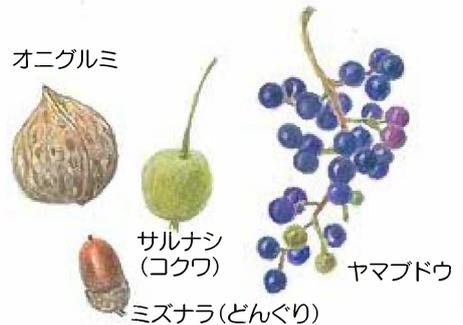
自分ではじけて飛ぶもの



動物や人にくっついて運ばれるもの



動物のエサとして運ばれるもの



自然が残る公園

行って
みよう



いすみ ぬま 泉の沼公園 (6.8ha)

泉の沼は千歳川の三日月湖（河跡湖）です。春は、ミズバショウやザゼンソウが咲き、マガモやカルガモを見ることができます。周囲にはツツジやエゾヤマザクラなどの木々があります。



55



ゆかわ 湯川公園 (7.0ha)

この地に入植した湯川家が、代々庭園を守り育ててきました。

広い敷地内には、道内では珍しい樹齢 100 年を超えるメタセコイヤやポプラなどの大木があり、林床にはミズバショウやオオバナノエンレイソウが、また、森の中では野鳥や小動物の姿を見ることができます。



63



おおあさちゅうおう 大麻中央公園 (10.6ha)

街中にあると思えないほど昔の面影が残されている公園です。

野鳥や魚を観察できる小屋やテラスがあります。春にはエンレイソウ類、スミレ類が多く見られ、沢の両斜面には、ウダイカンバやオニグルミなどの大木が多く、枝が水面にまで張り出しています。池にはフナやコイのほか、モツゴなどの外来魚も確認されています。

65



江別にある大切な緑

市内には、野幌森林公園以外にも緑がたくさんあります。これから紹介する林や樹木は地域の人が古くから守り続けてきたもので、これらは現在、法律や条例で守られています。

防風保安林 (111.9ha)

江別は春と秋に強い季節風が吹くため、農作物の成長の遅れを防ぐために植えられました。木の種類は、カラマツ、ヨーロッパトウヒの他に、ヤチダモ、ハンノキ、シラカンバなど郷土樹種も多く使われています。
※美原防風林、屯田兵村林など



美原防風林▶

環境緑地保護地区

大切な緑地として将来に引き継ぐため、以下の3地区を「環境緑地保護地区」として北海道が指定しています。

屯田兵村林 (12.0ha)

野幌 10 丁目から屯田川にわたって続くおおよそ 1.5km、幅 50m ほどの人工林帯とそれに続く屯田川沿いの広葉樹林帯です。開拓当時の屯田兵村を強い風から守ってきました。

58



江別鉄道林 (37.3ha)

鉄道を風雪から守る目的でヨーロッパトウヒ、トドマツなどが植えられました。今は周りが住宅地となり、車の騒音や排ガスを吸収する役目も果たしています。春には桜の花が見事に咲きほこります。

53 59 64



しのつ河畔林 (8.6ha)

しのつ河畔林は、旧石狩川と篠津川の合流地点に形成されたハルニレやオニグルミなどの高木からなる開拓時代からの天然林です。ハルニレやオニグルミなどは、肥沃で水はけの良い土質を好むことから、開拓者は自生している木を見て開拓地を選んだともいわれています。

54



記念保護樹木

野幌のっほろ小学校の記念保護樹木は、樹齡約 100 年のアカマツで、入植者が本州の郷里きょうりから種子しゅしを持ち込み苗木なえぎを育て、学校敷地の道々沿いに植えられたものです。

⑥0



保存樹林

江別市では、緑豊かな環境を守るため、「保存樹林」を 2 か所指定しています。



野幌屯田兵第二中隊本部樹林 (0.2ha)

錦山天満宮境内林 (0.3ha)



保存樹木



江別市では、歴史のある木や珍しい木を「保存樹木」、その候補木を「指定樹木」として選定しており、Google マップのマイマップ機能を利用して地図情報にまとめた、「江別市名木マップ」を web 上で公開しています。

[名木マップ](#)

主な保存樹木



プラタナス



スギ



ヤマモミジ



アメリカキササゲ



イチイ

みず べ かんきょう 水辺の環境

江別市は石狩川と千歳川、夕張川などが合流するところであり、市内には42の河川があります。越後沼をはじめとする湖沼や、三日月湖では、渡り鳥や多くの水生生物を観察することができます。



石狩川

いしかり 石狩川の流れ

▶昔

開拓期の石狩川は縦横に蛇行していて、石狩平野には広大な泥炭地や湿地帯が広がっていました。ここでは作物は育ちにくく、たびたび石狩川の氾濫により大きな洪水の被害にもあいました。



▶今

広大な湿地帯を田畑にするため、水位を下げる必要がありました。このため、曲がりくねった川を直線化し、堤防が作られました。流域には、かつて曲がりくねっていた川から切り離された「三日月湖」が残されています。



えちごぬま 越後沼

かつて石狩川流域に広がっていた湿原の名残をとどめる周囲約1.3kmの貴重な沼です。ヤチャナギやノハナショウブなど湿原の植物がみられ、春と秋には多くの渡り鳥を観察することができます。



越後沼

▶江別河川防災ステーション

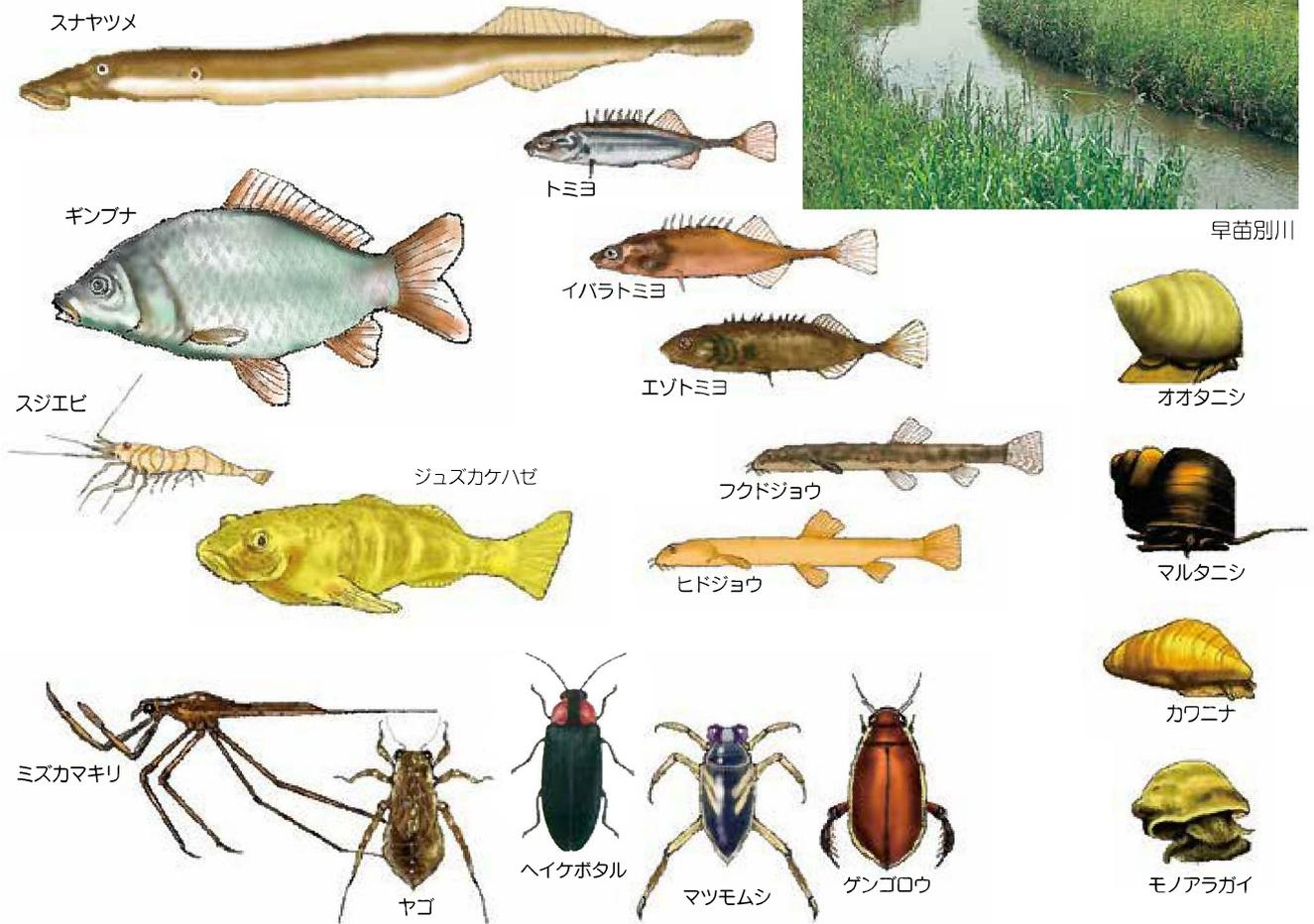
江別河川防災ステーションには、水の災害時に使われる道具が備蓄されています。また、普段は、展示コーナーで川の情報を勉強したり、江別のお土産を買ったりすることができます。



さなえべつ すいせいせいぶつ
▶ホタルが住む早苗別川の水生物



早苗別川



・ホタルのお話

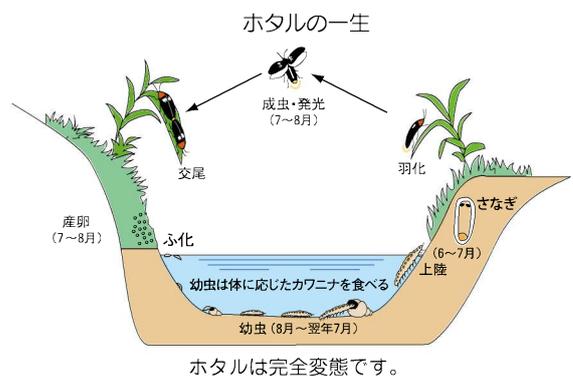
ホタルは世界中に約 2,000 種、その多くは熱帯地方に生息しています。日本にはゲンジボタルやヘイケボタルなど約 40 種（中には光を出さない種類もある）で、そのうち、道内にはヘイケボタルなど4種類が生息しています。

ホタルも幼虫のエサとなるカワニナもきれいな水質でなければ生きていけません。川岸の環境が湿ってコケなどが生えたところや、草や木が生えていることが必要です。そのような環境は、他の昆虫や水生生物にも住みやすい所と言えますが、今はとても少なくなりました。

さなえべつ
・早苗別川

千歳川支流の早苗別川は 20 年前にホタルが生息できる方法で改修されたことと、幼虫の放流活動によりヘイケボタルが徐々に増えてきました。

みなで、大切に守り育てましょう！



ヘイケボタルの光

江別で見られる主な動植物

江別市内で見ることが出来る主な動物や草花を紹介しくさばな しょうかいます。みなさんは、いくつ見たことがありますか？

鳥類

●しんりんせい森林性の鳥／ウグイス、センダイムシクイ、エナガ、カケス、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジ(コウライキジ)、アカゲラ、オオアカゲラ、クマゲラ、コゲラ、ゴジュウカラ、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、ツグミ、ニューナイスズメ、キジバト、チゴハヤブサ、オオルリ、キビタキ、フクロウ、コムクドリ、キレンジャク、ヒレンジャク

●そうげん草原性の鳥／カワラヒワ、エゾセンニュウ、コヨシキリ、カッコウ、ハクセキレイ、トビ、ノゴマ、ノビタキ、ヒバリ、ヒヨドリ、アオジ、オオジュリン、シマアオジ、ホオアカ、ホオジロ、チュウヒ、ムクドリ、アカモズ、モズ

●みずべ水辺の鳥／カイツブリ、オオハクチョウ、オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロ、コガモ、コハクチョウ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、マガモ、カワセミ、アオサギ、アオアシサギ、イソシギ、オオジシギ、オグロシギ、タシギ、オオワシ、オジロワシ、ショウドウツバメ



ヒレンジャク



ハクセキレイ



タシギ

鳥の聞きなし

鳥の声の節まわしをそれに似たことばに置きかえることを「聞きなし」と言います。鳥の種類を覚えるのに大変便利なので、みんなも傑作を考けっさくえてみよう！



ホー
ホチキョ



- ・フクロウ：ボロほうこうを着て奉公
- ・コノハズク：仏ぶつ法僧ぼうそう
- ・ウグイス：法ほう、法華ほけきょう経
- ・センダイムシクイ：焼酎しょうちゅう一杯いっぱいグイー
- ・エゾセンニュウ：ジョップげんべいンかけたか
- ・ホオジロ：源平げんへいつつじ、白いっぴつつつじ、一筆啓上いっぴつけいじょうつかまつりそらめ候

ほ乳類

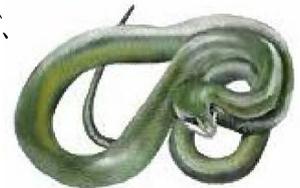
キタキツネ、アライグマ、タヌキ、エゾリス、シマリス、エゾモモンガ、イタチ、イイズナ、ミンク、ユキウサギ、エゾヤチネズミ、アカネズミ、エゾタガリネズミ、エゾシカ



エゾシカ

は虫類

トカゲ、カナヘビ、シマヘビ、ジムグリ、アオダイショウ



アオダイショウ

両生類

エゾアカガエル、アマガエル、エゾサンショウウオ



エゾサンショウウオ

昆虫類

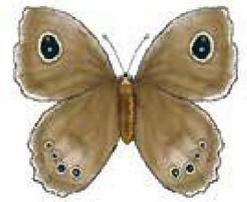
●カメムシ目／トドネオオワタムシ(雪虫)、アワフキムシ類、アブラゼミ、エゾハルゼミ、マダラナガカメムシ ●コウチュウ目／イシカリクロナガオサムシ、エゾマイマイカブリ、オトシブミ、ルリボシカミキリ、アカアシクワガタ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、ナガチャコガネ、ヒメコガネ、コメツキムシ類、ヒラタシデムシ、ソウムシ類、オオニジュウヤホシテントウ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、ウリハムシモドキ、カタクリハムシ、ヘイケボタル ●チョウ目／キアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、ツバメシジミ、ベニシジミ、ジョウザンミドリシジミ、モンキチョウ、モンシロチョウ、コキマダラセセリ、クジャクチョウ、ジャノメチョウ、マイマイガ、クワゴマダラヒトリ、ヒトリガ、クスサン ●トンボ目／アオイトトンボ、オツネトンボ、アキアカネ、ノシメトンボ、オオルリボシヤンマ ●ハエ目／ガガンボ類、ホソヒラタアブ ●ハチ目／ジガバチ(ヤマジガバチ)、クロヤマアリ、トビイロケアリ、ムネアカオオアリ、キイロスズメバチ、クロスズメバチ、セイヨウオオマルハナバチ ●バッタ目／ケラ、トノサマバッタ、ミヤマフキバッタ、ヒシバッタ



マダラナガカメムシ



ウリハムシモドキ



ジャノメチョウ



モクスガニ



ネジバナ



マムシグサ

水生昆虫

ミスカマキリ、オオコオイムシ、ゲンゴロウモドキ、マルガタゲンゴロウ、ガムシ、コオイムシ、マツモムシ

水生生物

サケ、ウグイ、エゾウグイ、ヤチウグイ、ドイツウグイ、ギンプナ、ヘラブナ、ドジョウ、エゾホトケドジョウ、フクドジョウ、ウキゴリ、ジュズカケハゼ、トウヨシノボリ、エソトミヨ、イバラトミヨ、イトヨ、モツゴ、タイリクバラタナゴ、スジエビ、モクスガニ、ニホンザリガニ、ドブガイ、マルタニシ、スナヤツメ、カワヤツメ

草花

●春の草花／エゾエンゴサク、ザゼンソウ、ヒトリシズカ、フクジュソウ、エンレイソウ、ニリンソウ、ヒメイチゲ、ミスバショウ、オオバナエンレンソウ、コンロンソウ、タチツボスミレ、フッキソウ、マムシグサ、ムラサキケマン、ヒメオドリコソウ、オオハナウド、マイズルソウ、ヤラメスゲ、ハルザキヤマガラシ、オオアマドコロ ●夏の草花／シロツメクサ、ヒメジョオン、カキツバタ、ハルジオン、エゾイラクサ、ヒルガオ、オオタヌキモ、ノゲシ、オオウバユリ、オオバセンキュウ、オニシモツケ、ノハナショウブ、ガマ、イヌタデ、オオイタドリ、ネジバナ、メマツヨイグサ、セリ、オオハンゴンソウ、ツユクサ、ノランジン、マコモ ●秋の草花／ミゾソバ、ユウゼンギク、セイタカアワダチソウ

参考図書

- 江別ガイドブックシリーズⅡ「江別の自然を訪ねる」／江別市教育委員会
- 野外観察ハンドブック「山野の鳥」／(財)日本野鳥の会

- フィールドガイド日本の野鳥／(財)日本野鳥の会
- 北海道探鳥ガイド／北海道新聞社
- ホタル／神田左京

- 北海道の昆虫／北海道新聞社
- 札幌の昆虫／北海道大学出版会
- 北海道の植物／北海道新聞社
- 新北海道の花／北海道大学出版会

ご協力いただいた方々

- 村野道子(イラスト:P5、6、7)
- 三浦幹雄(イラスト:表紙、P3、5、7、8、10、12、13、14)
- 阿部 豪(写真:P4 アライグマ)
- 自然ふれあい交流館(写真:P5、6)

